

英文科目名称：

|        |     |     |        |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間   | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期     | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員   |     |     |        |
| ◎田中美智子 |     |     |        |
| 添付ファイル |     |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | 人の身体機能を含め、生活は環境に左右される。ストレスの多い環境で健康を維持・増進していくために、環境や生活行動に働きかけることで生じる人の反応を検討し、その反応のメカニズムを明らかにする。これらにより、生活の中でストレス反応を緩和し、健康維持・増進への方向性を検討する。特に生体リズム、睡眠について探求する。   |
| 授業計画     | <p>1-2            オリエンテーション、研究課題の位置づけ<br/>講義の進め方<br/>レジリエンス、ストレス、生体リズム及び睡眠に関する文献などより、研究課題の位置づけを明確にする。</p> <p>3-8            文献レビュー<br/>該当する研究内容に関する文献レビューを行う。</p> <p>9-11          概念モデルの作成<br/>研究デザインと概念モデルについて<br/>取り組む研究課題についての概念モデルを作成する</p> <p>12-13        研究方法の検討<br/>研究方法について記載されている文献をもとに、研究課題を証明していくための最適な研究方法について検討し、明確化する。</p> <p>14-15        研究課題に関する文献レビューのまとめ<br/>研究課題に関して行った文献レビューをもとに、現状、問題点などを整理し、まとめを行う。<br/>文献レビューを報告としてまとめる。</p> |
| 授業形態     | 講義・演習  |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレッサーにより生じたストレス反応から、そのメカニズムについて考察することができる。</li> <li>2. ストレス反応について、健康維持・増進に向けての緩和方法を探求することができる。</li> <li>3. 特に、生体リズムや睡眠に対するケアについて検討することができる。</li> </ol>  |
| 評価方法     | 講義内の発表内容40%、課題レポート60%  |
| 教科書      | 適宜提示   |
| 参考書・参考文献 | 福原俊一著、臨床研究の道標、iHope international, ストレスや生体リズム、睡眠に関しては別途指定する。   |
| 履修条件     |  |
| 科目等履修    |  |
| 履修上の留意点  | 自身の研究に積極的に取り組み、主体的に進めていくこと   |
| 備考・メッセージ |  |

講義科目名称： 基礎看護学特別研究（健康増進看護学）

授業コード：

英文科目名称：

|        |      |     |        |
|--------|------|-----|--------|
| 開講期間   | 配当年  | 単位数 | 科目必選区分 |
| 通年     | 1-3年 | 8   | 選択     |
| 担当教員   |      |     |        |
| ◎田中美智子 |      |     |        |
| 添付ファイル |      |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | 看護を行う上で、健康の維持増進、健康障害の予防、健康の回復、苦痛の緩和は重要な視点である。環境からのストレスがもたらす生体反応について焦点を当て検討していく。なかでも、生体リズム、睡眠がどのように影響を受けるのか、また、生体リズム、睡眠が障害を受けないためにはどのような関わり、支援が有効かなどについて明らかにしていき、健康維持増進に向けての根拠となる睡眠への援助を見出し論文としてまとめる。論文作成の全過程において対象への倫理的配慮ができる。   |
| 授業計画     | <p>1-10回 研究課題と研究方法の明確化<br/>先行研究を検討しながら、研究課題と研究方法を明確化する。<br/>毎回、文献レビューを行い、研究計画書を作成していく。</p> <p>11-16回 研究計画書の完成と研究倫理審査<br/>研究計画書を完成させ、研究倫理審査を受ける。<br/>研究の実施が可能ないように準備を整える。<br/>毎回、研究経過の報告を行う。</p> <p>17-40回 中間報告書の作成<br/>文献レビューをもとに、取り組む課題についての文献レビューを報告としてまとめ、投稿する。<br/>研究計画にそって、データ収集及び分析を行い、結果を解釈していく。</p> <p>41-120回 論文の作成・学位論文審査<br/>論文をまとめ、学会発表および学術雑誌への投稿を行う。<br/>研究の最終的なまとめを行い、学位論文審査を受ける。</p> |
| 授業形態     | 演習・研究  |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の健康問題の解決を図るために、専門領域に生じている課題を見出すことができる。</li> <li>2. 見出した研究課題を解決するために、科学的・論理的思考に基づいて独創的な研究活動を主体的に行うことができる。</li> <li>3. 研究を行う上で、研究者として必要な研究倫理を身に付け、それに基づいて研究を遂行できる。</li> <li>4. 研究論文を完成させることができる。</li> </ol>  |
| 評価方法     | 文献レビュー10%、研究計画10%、研究手順の的確さ10%、最終論文70%  |
| 教科書      | 適宜提示   |
| 参考書・参考文献 | 福原俊一著、臨床研究の道標, iHope international   |
| 履修条件     |  |
| 科目等履修    | 否  |
| 履修上の留意点  |  |
| 備考・メッセージ |  |

英文科目名称：

|              |     |     |        |
|--------------|-----|-----|--------|
| 開講期間         | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期           | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員         |     |     |        |
| ◎濱寄真由美 長鶴美佐子 |     |     |        |
| 添付ファイル       |     |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | 生命の連続性を支える看護者の立場から、生命の誕生と健やかな成長に多大な影響を及ぼす健康課題や問題について幅広い視点から理解を深め、今日的課題を踏まえた看護者の支援の方向性及び方法について検討し、研究の方向性を探る。  |
| 授業計画     | <p>1～10回 ガイダンス /思春期・性成熟期について理解を深める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 下記の問題について、ゼミ形式で文献講読と討議を織り交ぜながら、様々な角度から思春期・性成熟期・更年期の理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期・性成熟期・更年期の人々の特徴<br/>(現代の社会問題ともリンクさせながら特徴を明らかにしていく)</li> <li>・思春期・性成熟期・更年期の健康課題と問題<br/>(様々な角度から現状と課題について検討する)</li> <li>・思春期・性成熟期・更年期の看護の現状と方向性<br/>(看護者の支援の現状と課題を明確にしながらか検討する)</li> <li>・思春期・性成熟期・更年期の研究の現状と課題<br/>(看護支援に必要な研究と課題を明確にし、実践の可能性を検討する)</li> </ul> </li> </ol> <p>11～15回 研究課題の文献レビュー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題の焦点化<br/>上記について学習を深める中で自己の研究課題の焦点化を図る。</li> <li>2. 研究課題の文献検討<br/>研究課題に関する文献レビューを行い、研究の可能性を探る。<br/>焦点化した研究課題に関して、さらに文献レビューを行い、討議を行う中で、研究の位置づけ、意義、オリジナリティの確認、研究の概念枠組みなどを明確にして、研究の可能性を探る。</li> </ol> |
| 授業形態     | 講義   |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>①思春期から性成熟期・更年期にある人々について家族や社会背景など幅広い視点から理解する</li> <li>②思春期から性成熟期・更年期の健康課題や問題について様々な角度から理解を深める。</li> <li>③看護者の支援の方向性や方法について考察を深める。</li> <li>④自己の研究課題の焦点化を図り、実践の可能性を検討する。</li> </ol>   |
| 評価方法     | 授業への参加状況・姿勢（発表・討論）70% レポート提出30%  |
| 教科書      | 随時紹介する   |
| 参考書・参考文献 | 随時紹介する   |
| 履修条件     |  |
| 科目等履修    | 可  |
| 履修上の留意点  | 履修者の背景やニーズを踏まえ、履修者と協議して授業内容を変更することがあります。   |
| 備考・メッセージ | 状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。  |

英文科目名称：

|                       |     |     |        |
|-----------------------|-----|-----|--------|
| 開講期間                  | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期                    | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員                  |     |     |        |
| ◎久野暢子 緒方昭子 重久加代子 矢野朋実 |     |     |        |
| 添付ファイル                |     |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | <p>※本科目は、ディプロマポリシー1・2・4の修得に重点をおいた一科目です。</p> <p>&lt;目的&gt;成人期・老年期にある患者およびその家族が抱える健康問題に関する看護学的知見を深め、博士論文作成の基盤を作ります。</p> <p>&lt;概要&gt;成人期・老年期にある患者および家族が抱える健康問題に対する看護ケアに焦点をあて、研究課題を見出し、研究方法論を探索します。</p>   |
| 授業計画     | <p>1回 <b>【ガイダンス】</b><br/>内容：本科目のガイダンス、履修スケジュールや研究計画書作成にかかる自己課題の確認など<br/>方法：討議</p> <p>2-10回 <b>【成人期・老年期にある対象への健康問題や看護ケア、研究デザインに関する文献レビュー】</b><br/>内容：関連文献のクリティーク<br/>方法：プレゼンテーション、討議<br/>※老年看護学の先生の授業を数回含める。</p> <p>11-15回 <b>【研究デザイン（全体）の検討】</b><br/>内容：研究課題に関する先行研究の総括、研究デザイン・研究方法の吟味、研究計画の全体構想<br/>方法：プレゼンテーション、討議、個人ワーク</p> |
| 授業形態     | 講義・演習  |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期・老年期にある患者や家族の健康問題に対する看護ケアに関して、先行研究の文献レビューができる。</li> <li>2. 自己の研究課題に関連する研究方法を説明できる。</li> <li>3. 自己の研究課題を解決しうる研究の枠組み（全体的な研究デザイン）を作成できる。</li> </ol>  |
| 評価方法     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献レビュー（授業への参加状況を含む）（60%）<br/>到達目標1に関して評価を行います。</li> <li>2. 最終課題レポート（研究の枠組みに関する内容）（40%）<br/>到達目標2・3に関して評価を行います。</li> </ol>  |
| 教科書      | なし   |
| 参考書・参考文献 | 適宜紹介する   |
| 履修条件     |  |
| 科目等履修    |  |
| 履修上の留意点  |  |
| 備考・メッセージ | 積極的・主体的に進めること。<br>履修者と相談のうえ、遠隔授業とする場合もあります。  |

英文科目名称：

|        |     |     |        |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間   | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期     | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員   |     |     |        |
| ◎松本憲子  |     |     |        |
| 添付ファイル |     |     |        |

|          |   |
|----------|---|
| 授業の目的・概要 | 地域の健康・生活課題や支援課題を、地域で生活する人々や関係者と協働する公衆衛生看護の活動方法論を理解し、健康を支える社会システムの構築を担う公衆衛生看護の研究方法論を探求する。  |
| 授業計画     | <p>1・3回 【授業オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション、講義の進め方</li> <li>・院生間で研究課題の共有</li> <li>・公衆衛生看護学の理念、学としての独自性<br/>対象把握、協働した活動方法</li> </ul> <p>4-9回 【文献レビューと研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題に関する文献レビュー</li> <li>・研究課題を追及するための研究方法の検討</li> </ul> <p>10-15回 【研究デザインの検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献レビューから捉えられた各自の研究課題の意義・目的</li> <li>・各自の研究の研究デザインの検討</li> <li>・研究対象の健康を支援する社会システムの検討</li> </ul> |
| 授業形態     | 講義・演習   |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護の理念と活動方法を理解できる。</li> <li>2. 協働した課題解決の公衆衛生看護活動を理解できる。</li> <li>3. 研究課題の関連する文献レビューを行い研究方法を探索し、研究デザインを検討することができる。</li> <li>4. 各自の研究課題を健康を支える社会システムの構築と関連させることができる。</li> </ol>  |
| 評価方法     | 授業への参加状況・プレゼンテーション (50%)、レポート (50%)   |
| 教科書      | 適宜紹介します   |
| 参考書・参考文献 | 適宜紹介します   |
| 履修条件     |   |
| 科目等履修    |   |
| 履修上の留意点  |   |
| 備考・メッセージ |   |

講義科目名称： 応用看護学特別研究（母子看護学・助産学） 授業コード：

英文科目名称：

|              |             |     |        |
|--------------|-------------|-----|--------|
| 開講期間         | 配当年         | 単位数 | 科目必選区分 |
| 通年           | 1～3年        | 8   | 選択     |
| 担当教員         |             |     |        |
| ◎濱寄真由美 長鶴美佐子 |             |     |        |
| 応用看護学分野      | 母子看護学・助産学領域 |     |        |
| 添付ファイル       |             |     |        |
|              |             |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | 生命の連続性を支える看護師の立場から、生命の誕生と健やかな成長に多大な影響を及ぼす健康課題や問題解決のための支援方法開発をねらいとした研究課題に取り組む。研究は適切な倫理的配慮のもとですすめ、成果を論文にまとめることができるよう指導する。  |
| 授業計画     | <p>I. 研究課題の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検討を行い、研究課題・方向性を明確にする。</li> <li>2. 文献検討結果を論文（総説）にまとめ、投稿する。</li> </ol> <p>II. 研究計画の立案と準備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究目的、目標、研究の概念枠組み、研究方法、倫理的配慮などを明確にし、研究計画を立案する。<br/>（主論文・副論文について、それぞれの位置づけを明確にし研究計画を作成する）</li> <li>2. 研究計画の発表（発表会の開催）</li> <li>2. 研究倫理審査委員会への提出</li> <li>3. 研究フィールドの開拓と調整</li> </ol> <p>III. データ収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究計画に基づきデータ収集を行う。</li> </ul> <p>IV. データ整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集したデータの整理・分析、分析結果の検討（ゼミ形式：中間報告会）</li> </ul> <p>V. 分析結果の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分析結果を研究ゼミや中間報告会で発表し、考察やまとめの方向性について検討</li> </ul> <p>VI. 論文作成</p> <p>論文投稿先の規定に沿って、論文を作成する。</p> <p>VII. 副論文の論文投稿と採択</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副論文は学会発表後に主要学会に投稿する（本論文提出までに学会誌に採択されること）</li> </ul> <p>VIII. 論文審査と発表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本論文（博士論文）は、予備審査をうける（10月）</li> <li>2) 予備審査後の修正を行い、本論文（博士論文）として提出する（1月）</li> <li>3) 博士論文審査をうける（1月）</li> <li>4) 論文発表会にて発表（2月）</li> <li>5) 学会への論文投稿（課程終了後1年以内に投稿し採択されること）</li> </ol> |
| 授業形態     |  |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学の博士論文としてふさわしい研究テーマの設定ができる。</li> <li>2. 必要かつ十分な文献レビューを行い研究計画の立案ができる。</li> <li>3. 研究成果を博士論文にまとめることができる。</li> <li>4. 博士論文（副論文を含む）の社会化ができる。</li> </ol>  |
| 評価方法     | 博士論文の可否  |
| 教科書      | なし   |
| 参考書・参考文献 | 適宜紹介   |
| 履修条件     | 母子看護学・助産学特講の単位を取得していること  |
| 科目等履修    | 否  |
| 履修上の留意点  |  |
| 備考・メッセージ | 状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。  |

講義科目名称： 応用看護学特別研究（成人・老年看護学）

授業コード：

英文科目名称：

|              |      |     |        |
|--------------|------|-----|--------|
| 開講期間         | 配当年  | 単位数 | 科目必選区分 |
| 通年           | 1-3年 | 8   | 選択     |
| 担当教員         |      |     |        |
| ◎久野暢子 ◎重久加代子 |      |     |        |
| 添付ファイル       |      |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | <p>※本科目は、ディプロマポリシー1～3の修得を中心とした一科目です。</p> <p>&lt;目的&gt;健康障害を抱える成人とその家族に対する質の高い看護援助に寄与できる看護研究（博士論文）を作成します。</p> <p>&lt;概要&gt;成人期・老年期にある患者および家族が抱える健康問題への支援方法の開発等に関する研究課題に取り組み、博士論文を作成します。看護学研究者として求められる倫理的配慮をもって主体的に研究を遂行します。</p>   |
| 授業計画     | <p>1回 【ガイダンス】<br/>内容：本科目のガイダンス、研究遂行スケジュールの確認など<br/>方法：討議</p> <p>2-10回 【研究課題と研究デザインの明確化】<br/>内容：研究課題に関連した文献のクリティーク、先行研究の総括、研究課題と研究目的の明確化、研究デザインの選択<br/>方法：プレゼンテーション、討議</p> <p>11-15回 【研究計画書（全体）の作成】<br/>内容：研究計画の全体構想<br/>方法：研究計画書（全体）の作成、討議</p> <p>16-60回 【副論文の作成、中間報告書の作成】<br/>内容と方法：（必要に応じて研究倫理審査受審後）副論文の作成、学術雑誌への投稿、中間報告書の作成</p> <p>61-120回 【研究倫理審査の受審、博士論文の作成（データ収集・分析・まとめ）】<br/>内容と方法：研究倫理審査の受審（主論文）、中間報告会の準備と実施、データ収集・分析、博士論文の作成、学位論文審査の受審（予備審査、学位論文審査）</p> |
| 授業形態     | 演習・研究  |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人・老年期にある患者や家族の健康問題への支援方法等に関して、先行研究を吟味し、研究課題を定めることができる。</li> <li>2. 研究課題の解決に向けた博士論文の全体構想を設定し、それぞれの研究の発展的つながりを持った研究計画書を作成できる。</li> <li>3. 研究計画書に基づき、主体的・倫理的な態度で研究を遂行できる。</li> <li>4. 博士論文を完成できる。</li> </ol>   |
| 評価方法     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献レビュー（10%）<br/>到達目標1に関して評価を行います。</li> <li>2. 研究計画書（10%）<br/>到達目標2に関して評価を行います。</li> <li>3. 研究活動における主体的・倫理的態度（10%）<br/>到達目標3に関して評価を行います。</li> <li>4. 最終論文（70%）<br/>到達目標4に関して、本学が定めた博士論文の評価規準に準じて評価を行います。</li> </ol> <p>※学位論文審査における予備審査合格により本科目の単位を取得したことになります。</p>  |
| 教科書      | なし   |
| 参考書・参考文献 | 適宜紹介する   |
| 履修条件     |  |
| 科目等履修    |  |
| 履修上の留意点  |  |
| 備考・メッセージ | 積極的・主体的・計画的に進めてください。   |

講義科目名称： 応用看護学特別研究（公衆衛生看護学）

授業コード：

英文科目名称：

|                            |  |     |        |
|----------------------------|--|-----|--------|
| 開講期間                       | 配当年  | 単位数 | 科目必選区分 |
| 通年                         | 1－3年   | 8   | 選択     |
| 担当教員                       |  |     |        |
| ◎松本憲子 川原瑞代 中村千穂子 川村道子 河野朋美 |  |     |        |
| 添付ファイル                     |  |     |        |
| 授業の目的・概要                   | 地域で生活する住民や関係機関が抱える健康・生活関連の課題あるいは支援者の活動に関する課題から、研究課題を設定し、適切な研究方法を用いて取り組み、博士論文を作成することを指導する。また、全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する  |     |        |
| 授業計画                       | 1－2回 ガイダンス<br>科目のねらい、構成、授業計画<br>授業スケジュールの決定<br>3－24回 研究課題と研究方法<br>体系的な文献レビューの実施と研究手法の探索<br>研究課題と研究目的、研究の新規性の確認<br>研究方法の選択<br>25－40回 研究計画書と中間報告書の作成、研究倫理審査<br>研究計画書の作成<br>中間報告書の作成<br>研究倫理審査申請書の作成、審査受理<br>41－80回 データおよび情報の収集・分析<br>研究計画に沿って研究データ・情報の収集と分析<br>81－20回 研究論文の作成及び学位審査<br>分析結果の考察、研究の新規性・独自性の表出<br>研究内容の論文化、学会発表及び学術雑誌への投稿<br>学位論文の作成<br>学位論文審査 |     |        |
| 授業形態                       | 演習・研究  |     |        |
| 到達目標                       | 1 公衆衛生の向上を図るための課題について、地域社会に起きている課題を明確化できる。<br>2 明確化した課題に係る先行研究や諸理論、研究方法を検討し、新規性・独自性のある自らの研究を主体的に追究していくことができる<br>3 研究を行う上で、研究者として必要な研究倫理を身につけ、それに基づいて研究を遂行できる。<br>4 研究論文を完成させることができる。   |     |        |
| 評価方法                       | 文献検討（10％）、研究計画（10％）、研究手順の的確さ（20％）、最終論文（60％）  |     |        |
| 教科書                        | 適宜提示する   |     |        |
| 参考書・参考文献                   | 適宜提示する   |     |        |
| 履修条件                       |  |     |        |
| 科目等履修                      | 否  |     |        |
| 履修上の留意点                    |  |     |        |
| 備考・メッセージ                   |  |     |        |

英文科目名称：

|         |     |     |        |
|---------|-----|-----|--------|
| 開講期間    | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期      | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員    |     |     |        |
| ◎毛利聖子 他 |     |     |        |
| 添付ファイル  |     |     |        |

|          |   |
|----------|---|
| 授業の目的・概要 | F. ナイチンゲールに始まり現代に至る看護理論を歴史的に辿りながら、看護実践を導く看護理論の創出・発展過程および学体系の構築が進むプロセスについて検討することを通して、看護学固有の理論体系について理解を深める  |
| 授業計画     | <p>1回                    オリエンテーション</p> <p>2-5回                看護理論の歴史の変遷を把握した上で、看護理論の創始者であるF. ナイチンゲールの目的論・対象論・方法論について理解を深める</p> <p>6-10回              主要看護理論について、著者の思想・哲学・認識論を調べ、理論形成についてプレゼンテーションを行い、討議を通して理解を深める。</p> <p>11-15回             看護理論の適用の現状についての文献調査を行い、自己の看護実践の分析の討議を通して、看護理論の発展の方向性を見出す。<br/> ・自己の看護実践に看護理論の適用を試み、分析過程を討議する。<br/> ・看護現象と本質をつなぐ表象レベルとの繋がりや、判断過程など、プレゼンテーションを行い、討議する</p> <p>*日程は調整します。<br/> *講義方法：一斉講義・各自のプレゼンテーションと討議</p> <p>*予習・復習・事前課題などは、講義の中で連絡します。</p> <p>*担当教員は、総合病院での臨床経験を積み、看護教育に携わっています。</p> |
| 授業形態     | 講義・プレゼンテーション・討議   |
| 到達目標     | 1 看護理論の創出過程・特徴・実践への有効性について理解を深める<br>2 人間科学の中の看護学の特徴を討議できる<br>3 現実の看護問題に看護理論を適用し看護実践の事例分析を行い、看護現象と本質をつなぐ表象レベルとの繋がりや、判断過程など、分析のプロセスを論述できる   |
| 評価方法     | 討議内容40% レポート30% プレゼンテーション内容30%  |
| 教科書      |   |
| 参考書・参考文献 |   |
| 履修条件     |   |
| 科目等履修    |   |
| 履修上の留意点  |   |
| 備考・メッセージ |   |

講義科目名称： 科学者倫理

授業コード：

英文科目名称： Ethics for Scientists

|             |     |            |        |
|-------------|-----|------------|--------|
| 開講期間        | 配当年 | 単位数        | 科目必選区分 |
| 後期          | 1年  | 2          | 選択     |
| 担当教員        |     |            |        |
| ◎岩江荘介 田中美智子 |     |            |        |
|             |     | 2 Semester | 30時間   |
| 添付ファイル      |     |            |        |
|             |     |            |        |

|          |   |
|----------|---|
| 授業の目的・概要 | <p>本科目では、健全な科学の発展の求められる「倫理的妥当性とは何か」について考え、さらに研究を行っていく大学院生として「責任ある研究活動とはどういうものか」について考える。また、それを実践するために必要な研究倫理に関する感受性を高めるとともに、知識を修得する。</p> <p>具体的には、これまでに報告されている研究不正の事例をもとに、研究対象者保護や研究公正の概念を再確認し、これらに関連する明文規定についても理解する。</p> <p>履修者からの積極的な発言を期待する。</p>  |
| 授業計画     | <p>第1回 看護研究のための倫理<br/>第1回目は田中が担当 講義・一部演習</p> <p>第2回 「科学的思考」について（岩江）<br/>講義・一部演習</p> <p>第3回-第4回 「倫理的思考」について：「科学」を行う者としての「あるべき」姿勢とは何か？（岩江）<br/>講義・一部演習</p> <p>第5回-第6回 人を対象とする研究の倫理について：「研究対象者保護の歴史」など（岩江）<br/>講義・一部演習</p> <p>第7回-第8回 人体以外の試料・情報を対象とする研究の倫理について（岩江）<br/>講義・一部演習</p> <p>第9回-第10回 ヒト以外の動物を使用する研究の倫理について（岩江）<br/>講義・一部演習</p> <p>第11回-第12回 研究公正：なぜ研究は正しくないといけないのか？（岩江）<br/>講義・一部演習</p> <p>第13回-第14回 科学研究と社会：科学の進歩の表と裏について考える（岩江）<br/>講義・一部演習</p> <p>第15回 まとめ（岩江）<br/>演習：ディスカッション</p> |
| 授業形態     | 講義  |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「科学的思考とは何か」、「倫理的思考とは何か」を理解できる。</li> <li>2. 「科学」を行なう者としての「あるべき」姿勢とはどのようなものかについて理解できる。</li> <li>3. 科学活動における倫理を実践するための思考を身に付ける。</li> </ol>   |
| 評価方法     | 参加度（40%）、期末試験（60%）  |
| 教科書      | 教科書は特に使用しません。講義中にプリントを配布します。  |
| 参考書・参考文献 | 参考書あれば、講義中に適宜紹介します。   |
| 履修条件     | —   |
| 科目等履修    | 可   |
| 履修上の留意点  | 講義の内容、および順序については、受講生のニーズによって変更することもあります。  |
| 備考・メッセージ | 実践的な知識の習得も大切なので、実際に従事した研究で経験した倫理的疑問等があれば、講義の中で発言いただいて結構です。  |

英文科目名称：

|              |     |     |        |
|--------------|-----|-----|--------|
| 開講期間         | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期           | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員         |     |     |        |
| ◎町浦美智子 田中美智子 |     |     |        |
| 添付ファイル       |     |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | <p>授業の目的：概念分析や自らが独立して看護学研究を行うために必要な知識と技術を習得すること</p> <p>授業の概要：看護実践、研究の遂行、理論開発における概念分析や関係性の記述文の統合の位置づけや方法について学び、自身の研究における主要概念の属性、先行要件、帰結の明確化や概念枠組みの構築について理解する。<br/>質の良い研究を継続的に行うための方略として、外部資金の獲得、研究計画のブラッシュアップ、さらにはプレゼンテーションなど、研究を遂行する上での必要不可欠なことを学修する。</p>  |
| 授業計画     | <p>1回 田中担当：オリエンテーション<br/>講義の進め方<br/>これまでにいった研究についてのディスカッション<br/>1～8回：田中担当<br/>9～15回：町浦担当</p> <p>2回 研究を実施する方略<br/>研究計画立案を実際に行い、ディスカッションする。</p> <p>3-4回 外部資金獲得のための方法</p> <p>5-7回 外部資金獲得のための研究計画書</p> <p>8回 研究を実施する方略<br/>プレゼンテーション</p> <p>9回 (1回) 町浦担当：概念分析<br/>理論構築における概念の明確化の意義 (概念・命題・前提・理論・パラダイムについて)</p> <p>10回 (2回) 概念分析<br/>演繹的な概念分析の考え方と方法 (1) Walker &amp; Avant</p> <p>11回 (3回) 概念分析<br/>演繹的な概念分析の考え方と方法 (2) Rodgersによる方法</p> <p>12回 (4回) 概念分析<br/>概念分析の実際：研究テーマに即した概念を選択し、概念分析をする。その結果を発表し討議する。</p> <p>13回 (5回) 概念分析<br/>関係性を示す記述文の分析・統合：概念間の関係を記述し、統合するプロセスを学修する。</p> <p>14回 (6回) 概念分析<br/>関係性を示す記述文の分析・統合の実際：<br/>研究テーマに即した研究論文から関係性の記述文を導き、科学的な理論またはモデルを構築する</p> <p>15回 (7回) 概念分析<br/>看護研究における理論や概念枠組みの適用について</p> <p>町浦先生の概念分析は土曜日に集中となります。<br/>3回目と4回目の間、5回目と6回目の間は3週間ほど開けての開催としますので、概念分析の講義の空いた期間に田中の講義を組みたいと思います。</p> |
| 授業形態     | 講義   |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概念分析の基本的な方法や研究テーマに即した概念枠組みの構築について理解できる。</li> <li>2. 研究を実施するための研究計画立案、研究論文、プレゼンテーションなどについて理解する。</li> <li>3. 外部資金獲得のための計画書を作成できる。</li> </ol>   |
| 評価方法     | レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、参加度(ディスカッション) (20%)   |
| 教科書      |  |
| 参考書・参考文献 | <p>近藤克則. 研究の育て方-ゴールとプロセスの「見える化」医学書院</p> <p>近藤真理、片田範子監訳. (2023). 看護における概念開発 基礎・方法・応用. 医学書院</p> <p>中木高夫、川崎修一訳. (2008). 看護における理論構築の方法. 医学書院 (第3版の邦訳)</p>  |

|          |   |
|----------|---|
|          | <p>ポーリット&amp;ベック著、近藤潤子監訳。(2010)。看護研究 - 原理と方法 第2版. 医学書院</p> <p>Rodgers, B.L., &amp; Knafelz, K.A. (2000). Concept Development in Nursing, Foundations, Techniques, and Applications. 2nd ed. W.B. Saunders Company</p> <p>Walker, L.O. &amp; Avant, K.C. (2018). Strategies for theory construction in nursing, 6th ed. Person</p> |
| 履修条件     |   |
| 科目等履修    |   |
| 履修上の留意点  | <p>初回の講義でスケジュールなどの調整を行う。一部、集中講義となる。</p> <p>講義の順番は入れ替えが生じる可能性がある。</p> <p>授業で使用する文献等は適宜紹介する。</p>  |
| 備考・メッセージ |   |

英文科目名称：

|          |   |     |        |
|----------|---|-----|--------|
| 開講期間     | 配当年   | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期       | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員     |   |     |        |
| ◎浅野昌充    |   |     |        |
| 添付ファイル   |   |     |        |
| 授業の目的・概要 | <p>学的研究及び科学的理論構築のために必要な科学である「弁証法」と「認識論」について、生命科学を題材に学び、対象の論理構造を究明する実力を養成する。</p> <p>ものごとは運動・変化・発展としてある。人類は、自然世界の究明を一つの軸に、その運動・変化・発展を正しくとらえる能力を「弁証法」と呼んで、発展させてきた。しかし、その能力を身に着けるためには、その発展の歴史的順序を、対象に対立を見出す訓練から始まって、正しくたどる必要があるので、「弁証法」のイロハから学習していく。</p> <p>人間を対象とする科学は、他の動物と一線を画する頭脳活動（＝「心と頭」の働き）を行うように進化した生命体であるとの、しっかりとした理解の上に成り立つものである。ここでは、看護研究の理論基盤となる「科学的認識論」（＝頭脳の科学）を「問いかけの反映」や「観念的二重化」の構造を中心に、「心と頭」の働きの事実から分かっていく。</p> |     |        |
| 授業計画     | <p>1-15回 【自然および生命の弁証法と科学的認識論】</p> <p>ここではとくに、自然科学に限らず、あらゆる分野の学問としての科学的方法に不可欠な「弁証法」と「認識論」をその基本から学びながら、受講者の研究などを素材として、方法の基点となる問題の焦点化にかかわる背後の生命観、人間観を探り出し、その是非を問いながら、研究方法に生命科学研究方法を反映させていく。</p> <p>以下、項目（順不同）</p> <p>「事実と論理」、「弁証法」の諸概念・諸法則、「認識論」の諸概念・諸法則、「論理と解釈」、「生命の本質と起源および歴史」、「人類の歴史の流れ」、「学問の歴史」、「生物学の諸概念・諸法則」、「科学的人間論」</p>   |     |        |
| 授業形態     | 講義  |     |        |
| 到達目標     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 弁証法の諸概念・諸法則を事実に捉えることができる。</li> <li>2. 人間の頭脳活動（＝認識）が「問いかけの反映である」と言われる構造を自分の認識的事実で説ける。</li> <li>3. 人間生命の特質を踏まえ、所謂「のぼりおり」の過程として研究を展開できる。</li> </ol>  |     |        |
| 評価方法     | 講義・ゼミへの取り組み   |     |        |
| 教科書      | ゼミの時に指示   |     |        |
| 参考書・参考文献 | ゼミの時に指示   |     |        |
| 履修条件     |   |     |        |
| 科目等履修    | 可   |     |        |
| 履修上の留意点  |   |     |        |
| 備考・メッセージ | 合わせて、各人の個々の研究に役立つよう、学的研究方法論としてもゼミ形式で授業を進めていく。   |     |        |

英文科目名称：

|        |     |     |        |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間   | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期     | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員   |     |     |        |
| ◎岩江荘介  |     |     |        |
| 添付ファイル |     |     |        |

|          |  |
|----------|--|
| 授業の目的・概要 | <p><b>【目的】</b><br/>社会科学の目的・方法・実践の基本を学習し、看護学研究へ応用できることを目指す</p> <p><b>【概要】</b><br/>社会科学の視点・手法・アプローチ方法を学ぶこと、社会科学の要素を取り込んだ看護学の事例を学ぶこと、看護学に関連する話題を使ってアウトライン作りをすることを通じて、看護学研究と社会科学の融合を実践する</p>   |
| 授業計画     | <p>1回 <b>【総論：「社会科学とは何か？」について考える】</b><br/>・内容 社会科学の目的や意義、社会科学の方法などについて概観する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>2回 <b>【「経済」を巡る社会科学からのアプローチ】</b><br/>・内容 経済活動を巡る様々な社会現象について、経済学などの社会科学分野の視点から考察することで、社会科学の手法やアプローチの方法について学習する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>3回 <b>【演習①：看護学分野と経済学の融合】</b><br/>・内容 看護学分野の研究論文で、社会科学分野の手法等を応用した事例を検証することで、社会科学の看護学研究へ応用のあり方について理解する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>4回 <b>【「家族」を巡る社会科学からのアプローチ】</b><br/>・内容 結婚・出産など家族を巡る様々な社会現象について、家族社会学など社会科学分野の視点から考察することで、社会科学の手法やアプローチの方法について学習する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>5回 <b>【演習②：看護学分野と家族社会学の融合】</b><br/>・内容 看護学分野の研究論文で、社会科学分野の手法等を応用した事例を検証することで、社会科学の看護学研究へ応用のあり方について理解する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>6回 <b>【「ジェンダー」を巡る社会科学からのアプローチ】</b><br/>・内容 ジェンダーや性差を巡る様々な社会現象について、ジェンダー学など社会科学分野の視点から考察することで、社会科学の手法やアプローチの方法について学習する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>7回 <b>【演習③：看護学分野とジェンダー学の融合】</b><br/>・内容 看護学分野の研究論文で、社会科学分野の手法等を応用した事例を検証することで、社会科学の看護学研究へ応用のあり方について理解する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>8回 <b>【「国際問題」を巡る社会科学からのアプローチ】</b><br/>・内容 グローバル化された社会で起こる現象について、国際政治学をはじめとする社会科学分野の視点から考察することで、社会科学の手法やアプローチの方法について学習する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 参考資料に基づいた、科目全体の復習</p> <p>9回 <b>【演習④：看護学分野と国際政治学の融合】</b><br/>・内容 看護学分野の研究論文で、社会科学分野の手法等を応用した事例を検証することで、社会科学の看護学研究へ応用のあり方について理解する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</p> <p>10回 <b>【「科学技術」を巡る社会科学からのアプローチ】</b><br/>・内容 科学技術を巡る様々な社会現象について、政策科学をはじめとする社会科学分野の視点から考察することで、社会科学の手法やアプローチの方法について学習する<br/>・方法 講義形式<br/>・復習 参考資料に基づいた、科目全体の復習</p> <p>11回 <b>【演習⑤：看護学分野と政策科学の融合】</b><br/>・内容 看護学分野の研究論文で、社会科学分野の手法等を応用した事例を検証することで、社会科学の看護学研究へ応用のあり方について理解する<br/>・方法 講義形式</p> <p>12回 <b>【「医療」を巡る社会科学からのアプローチ】</b><br/>・内容 健康や病気あるいは死など医療を巡る様々な社会現象について、医療社会学をはじめとする社会科学分野の視点から考察することで、社会科学の手法やアプローチの方法について</p> |

|          |  |
|----------|--|
|          | <p>学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方法 講義形式</li> <li>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</li> </ul> <p>13回 【演習①：看護学分野と医学社会学の融合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 看護学分野の研究論文で、社会科学分野の手法等を応用した事例を検証することで、社会科学研究の看護学研究へ応用のあり方について理解する</li> <li>・方法 講義形式</li> <li>・復習 参考資料に基づいた、科目全体の復習</li> <li>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</li> </ul> <p>14回 【特論：「ケーススタディ」の方法論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 少数の事例を詳細に分析する「ケーススタディ」の手法と看護学研究への応用を学習する</li> <li>・方法 講義形式</li> <li>・復習 参考資料に基づいた、科目全体の復習</li> </ul> <p>15回 【ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 これまで学習したことを踏まえ、看護学分野の話題について、社会科学研究の方法論を用いた論文のアウトラインを作成し発表する</li> <li>・方法 講義形式</li> <li>・復習 講義内で指示した項目を中心とした復習</li> </ul> |
| 授業形態     | 講義   |
| 到達目標     | 社会科学研究の視点・手法・アプローチ方法を学習し、看護学研究と社会科学研究の融合を実践すること  |
| 評価方法     | 期末レポート（60%）、授業への参加度（40%）<br>※総点（100点）に対する成績評価区分S～Dは、履修規程のとおり   |
| 教科書      | 特に使用しない（講義時に教材資料を適宜配布します）  |
| 参考書・参考文献 | 講義の中で、必要に応じて指示いたします。   |
| 履修条件     | —  |
| 科目等履修    | 可  |
| 履修上の留意点  | 講義を聴いて関心を持った社会現象があれば、新聞データベースや図書などに当たって、自分なりに深掘りしてください   |
| 備考・メッセージ | 「社会科学」のものごとの見方は、日常的に意識することでより早く習得することができます。受講期間中は、新聞やニュースの情報だけでなく、看護の現場等で見かけた現象について、その背景にある構造をあれこれ考えるようにしてみてください   |

講義科目名称： アカデミックライティング

授業コード： 20018

英文科目名称： Academic writing

|            |     |     |        |
|------------|-----|-----|--------|
| 開講期間       | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 1 Semester | 1年  | 2   | 選択     |
| 担当教員       |     |     |        |
| ◎川北直子      |     |     |        |
| 添付ファイル     |     |     |        |

|          |   |
|----------|---|
| 授業の目的・概要 | 受講生自身の研究内容を用いて、英文抄録を書けるようになるための演習、国際学会でのポスター発表・口頭発表の提示資料・発表原稿を書く演習を行う。<br>演習を通して英語での研究発表のスタイルや必要な表現を学ぶ。   |
| 授業計画     | 1-3 Writing abstract<br>Learning how to write abstract using participants' previous thesis or research papers.<br>4-8 Poster presentation<br>Learning how to prepare poster presentation using participant's previous research papers (or ongoing research).<br>9-15 Oral presentation<br>Learning how to prepare slide/oral presentation using participant's previous (or ongoing) research. |
| 授業形態     |   |
| 到達目標     | 1) 英文抄録が書けるようになる<br>2) 自己の研究をポスターにまとめられる<br>3) 自己の研究を口頭発表するためにスライド・原稿が書ける   |
| 評価方法     | 成果物 (Abstract: 20%, Poster: 20%, Slide: 20%, Oral presentation: 20%)<br>授業への取り組み: 20%   |
| 教科書      |   |
| 参考書・参考文献 | 追って指示する   |
| 履修条件     |   |
| 科目等履修    | 可   |
| 履修上の留意点  |   |
| 備考・メッセージ |   |